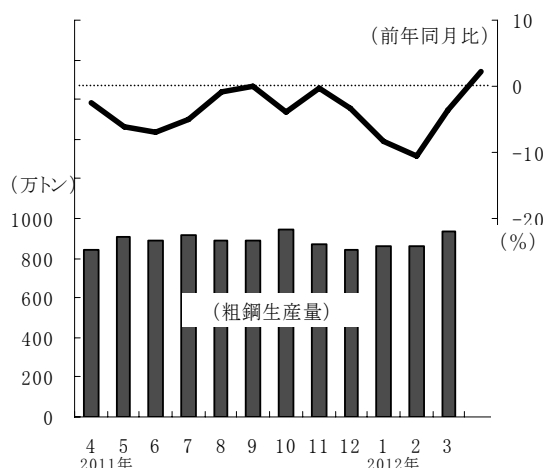


った。2年連続で1億トン台を維持したが、2009年以来2年ぶりに前年度実績を下回った。年度当初は大震災の発生で生産が落ち込んだほか、年度下期も急激な円高ドル安傾向を受けて輸出向け生産が落ち込んだ。2011年度の炉別生産量をみると、転炉鋼が前年度比5.9%減の8,122万トンだったのに対して、電炉鋼は同3.1%増の2,525万トンと増加した。この結果、電炉鋼比率は23.7%と前年度比1.6ポイント上昇した。

財務省が発表した発表した3月の鉄鋼貿易統計によると、輸出（全鉄鋼ベース）は前年同月比4.8%減の385万6,000トンとなり、13カ月連続の前年実績割れとなった。3月は決算期末で輸出が増えるという季節要因があり、2011年度での月間最高となった。輸入は同0.7%減の63万5,000トンと小幅ながら27カ月ぶりに減少した。主要国・地域別輸出では、韓国・台湾などアジアNIE's向けが125万5,000トン（前年同月比12.0%減）、中国向けは52万9,000トン（同23.0%減）と前年割れが続いているが、ASEAN向けは107万トン（同7.5%増）と前年を上回った。アジア以外では市況上昇を先駆けた中東向けが52万9,000トン（同58.0%増）と大きく増加し、米国向けが24万2,000トン（同0.6%増）、EU向けが3万トン（同56.7%減）、ロシア向けが1万5,000トン（同19.8%増）となった。国別輸入はアジアNIE'sからは39万1,000トン（同19.2%増）、中国からが11万トン（同7.2%増）と増加している。この結果、2011年度の鉄鋼輸出入は、輸出が前年度比8.4%減の3,960万8,000トンとなり、3年ぶりに前年割れに転じ、輸入は同11.8%増の809万4,000トンとなった。

図－1 国内粗鋼生産の月次推移



◆4～6月期粗鋼需要、2四半期ぶり減——経産省見通し

経済産業省が発表した2012年度第1四半期（4～6月期）の粗鋼需要見通しは2,610万トンと前期比1.9%減、鋼材総需要は同2.8%減の2,381万トンとともに2四半期ぶりに減少する。第1四半期の普通鋼鋼材内需は1,201万トンと前期比5.5%減と見込んでいる。建設は468万トンと2.1%減とみている。うち建築は348万トンと伸びる一方、土木は一部復興需要が出るものの公共分野が端境期に入り、120万トンで20.8%減と見込んでいる。製造業は7.6%減の733万トンと見込んでいるが、そのうち自動車が11.4%減の287万トン、産業機械が1.3%減の126万トンといずれも季節要因で減少するとみている。また、建造ペースが低下する造船は7.8%減の119万トンと見込んでいる。普通鋼鋼材輸出は前期比3.1%増の660万トンとみているが、これはタイ洪水の回復に加えて、一部海外需要家の在庫調整の進展が寄与するとみている。

特殊鋼鋼材の需要は、前期比 3.3%減の 520 万トンと見込んでいる。季節要因で自動車向けが減少するため国内向けが 6.2%減少する一方、輸出は 2.3%増加し、四半期で最高だった 1985 年第 1 四半期に迫る水準になるとみている。

◆JFEHD が新中期計画

JFE ホールディングスは 4 月 20 日、2012～14 年度の 3 年間を対象とする第四次中期経営計画を発表した。投資額は 3 年間で 1 兆円（前計画で 8 千億円）で、海外投資比率は前中期実績の 25%から 50%へ拡大する。業績面では 2014 年度に連結売上高 4 兆円、売上高経常利益率 10%を目指す。経常利益は 4 千億円となる計算で、過去最高だった 2006 年 3 月期（5,173 億円）の 8 割弱に相当する。

グループ共通施策として、①国内収益基盤の再構築、②技術優位性による企業価値拡大、③積極的な投資の継続、④グローバルマーケットでのプレゼンス拡大——などに取り組む。グローバル展開では、鉄鋼事業では現地生産を強化するほか、エンジニアリング事業では営業・技術機能の海外展開を拡大する。また、主力である鉄鋼事業の事業規模を、現在の 3,000 万トンから 5 年後に 4 千万トンに拡大する。

◆JFES、越に一貫製鉄所建設の FS 開始

JFE スチールは 3 月末にベトナムで合弁一貫製鉄所建設の事業化調査（FS）に着手することを発表した。これは、台湾の大手鉄鋼メーカー義聯集団が進めている計画に過半数の出資比率で参画する前提で同社と覚書を交わしたものである。義聯集団は現地製鉄事業会社のグアンリンスチル社を設立し、ベトナム当局から投資ライセンスを既に取得し、ベトナム東部のダナン市の南約 90 キロに位置するグワンガイ省ズンクワット工業団地内に建設予定地を確保している。計画では第 1 期の粗鋼年産は 350 万トン程度の薄板中心の製鉄所で、2016 年稼動を想定している。

FS は 2012 年をめどに必要なインフラ整備、各種優遇策などを含めた事業性を確認することになっており、確認されれば 2013 年にも着工される運びとなっている。ベトナムは、順調な経済成長を背景に鋼材需要も安定的に拡大しており、JFES は「ベトナム国内向け内需、および東南アジア向けを中心とした外需に対応した鋼材供給拠点として期待できる」としている。

◆3 月世界粗鋼生産、1.3 億トン——WSA 発表

世界鉄鋼協会（WSA）の発表によると、3 月の世界（62 カ国）の粗鋼生産は前年同月比 1.8%増、前月比 2.3%増の 1 億 3,219 万 8,000 トンとなった。前年同月比では 2 カ月連続、前月比では 2 カ月ぶりに増加した。中国は 6,158 トンと 2011 年 5 月以来の 6 千万トン台で月間最高を更新したほか、中国以外も 7,062 万トンと 2011 年 3 月以来の 7 千万トン台に乗せた。

62 カ国の 3 月の日産量は前月比 2.3%増と 3 カ月連続で上伸び、製鋼操業率は 81.1%で前月比 1.6 ポイント上昇した。中国の日産量は前月比 3.1%増と 4 カ月連続の増で、中国以外は 1.6%増と 3 カ月連続で増えた。韓国の 3 月生産は月間最高だった 2011 年 10 月以来の 600 万トンを回復した。インドは月間最高を更新した。ブラジルは 2011 年 8 月以来の 300 万トンを更新し、新興国が再び増産体制に入っている。先進国は EU27 が 2011 年 10 月以来の 1,500 万トン台に乗せ、北米が 4 カ月連続で 1 千万トンを上回り、日本は 2011 年 10 月以来の 900 万を回復するなど、先進国も生産水準が回復してきた。 □